

分担研究報告

# 「CBRNEテロへ対する対応能力 向上に関する研究」

研究分担者 竹島 茂人

(自衛隊中央病院 診療科 総合診療科部長)

分担研究報告書

「CBRNEテロへ対する対応能力向上に関する研究」

研究分担者 竹島茂人

自衛隊中央病院・診療科・総合診療科部長

研究要旨

CBRNEテロ等の際に被害を最小限にするための手段の第1は、現場での対応である。現場に居合わせた人が、どのように行動するかによって本人そして被害集団の死亡率等が大きく変動する。各国が教えるテロ現場対応を、各方面における講演や発表等の機会を用いて紹介し、最も高い救命率が得られる手法を啓蒙した。特に「Active Bystander」という日本では未だ紹介されていない用語・概念を紹介し、被害集団の多くが生き残れる様に教示したが、日本人社会に受け入れられるのには、未だ時間が必要かもしれない。

A. 研究目的

各方面へテロ対応・特殊武器対応の講演を行うことを通じて、CBRNEテロへの対応能力の向上を図った。特に「Active Bystander」についての紹介・理解を深めることを目的とした。

B. 研究方法

各方面での講演を通じて、①自らがテロに遭遇した場合の現場対応 ②被害集団の死亡率を軽減させるための手段として、「Active Bystander」としてどのような行動を取るべきかを啓蒙した。

（倫理面への配慮）：特に、なし。

C. 研究結果

東京消防庁第7消防方面本部、おきなわ救急医療懇話会、災害医療を考える会、テロ対策特殊装備展パネル、横浜栄共済病院での講演会や発表を通じて、CBRNEテロにおける現場対応やBystanderとしての

行動について啓蒙できた（発表資料については、別紙を参照）。

D. 考察

「Run, Hide, Fight」といった米国式のテロ現場対応について、日本人は抵抗がある可能性が高いと考えていたが、熟慮すれば納得のいく行動であることを理解してもらえたものと考えている。また、「Active Bystander」という、自らを犠牲にしても集団を救うといった考え方については、未だ国民的に受入は困難と思料した。今後、継続的な啓蒙活動が必要と考えた。

E. 結論

各方面での講演会や発表等を通じて、国内でCBRNEテロが起こった際の、現場対応そして被害集団における救命率を上昇させるための手段について「Active Bystander」の概念を紹介しながら教示した。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

- 1) 第46回日本救急医学会総会（日本救急医学会雑誌 29, 10, 378, 2018)

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得：なし。
2. 実用新案登録：なし。
3. その他：なし。